

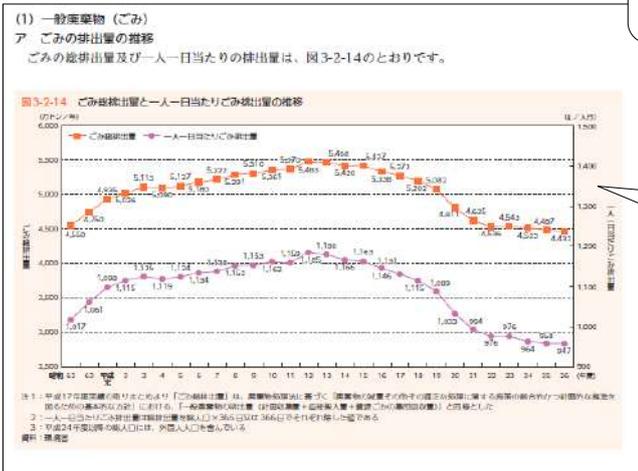
情報メモをつくる

～きちんとまとめておけば、後がとってもラクになる～

1. 調べたことは、1項目1枚、すべて同じファイルにまとめよう！

調べた情報は、下のような情報メモを作ります。情報1つにつき、1枚にまとめるのが基本です。情報メモは1冊のファイルにまとめましょう。1冊にしておけば見返す時に便利です。情報メモの代わりに、自分で記録用のノートを用意するのもOK。パソコンやスマートフォンで記録する場合も、記録専用のフォーマットやフォルダーを作っておくと便利です。この時も、情報1つにつき、シートは1つです。

(1) 本の場合

情報メモ (図書) NO. 3									
キーワード	一般廃棄物の総排出量 一人当たりのごみ排出量 年ごとの推移 グラフ								
情報内容引用	p.179～ コピー 								
出典	<table border="1"> <tr> <td>著者・編者・監修者</td> <td>環境省 / 編</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>環境白書/循環型社会白書/静物多様性白書 平成28年版</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>日経印刷</td> </tr> <tr> <td>出版年・ページ</td> <td>2016年 p. 179</td> </tr> </table>	著者・編者・監修者	環境省 / 編	書名	環境白書/循環型社会白書/静物多様性白書 平成28年版	出版社	日経印刷	出版年・ページ	2016年 p. 179
著者・編者・監修者	環境省 / 編								
書名	環境白書/循環型社会白書/静物多様性白書 平成28年版								
出版社	日経印刷								
出版年・ページ	2016年 p. 179								
メモ	<p>ごみの排出量はH14をピークに減っている。H26はS62より少ない。 →なぜ減ったのか？ →具体的な取り組みは？もっと減らすにはどうすればいい？ →産業廃棄物はどうか？</p>								

これがレポート・論文の根拠になります。
 たくさん集めると深みのある
 レポート・論文になるよ！

内容について、自分でキーワードをつけておくと、まとめるときに便利

調べた内容や引用書き写さずともコピーや印刷を貼ってもOK！

調べた情報源の基本情報を必ず記録します！
本：書名・著者名・出版社・出版年・ページ
雑誌・新聞：雑誌名(新聞名)・記事タイトル・巻号・ページ・出版日付
ここを記録しておかないと、情報の出典がわからなくなるよ！

自分の考えや、重要度、比較など自由に書こう

(2) インターネットの場合

情報メモ (インターネット)		NO. 2										
キーワード	温室効果ガス 排出量 推移 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年度											
情報 内容 引用	<p>3 日本の温室効果ガスの排出状況 2015年度の温室効果ガス総排出量は、約13億2,500万トンCO₂でした。前年度(2014年度)/2013年度の総排出量(13億6,400万トンCO₂/14億900万トンCO₂)と比べると、電力消費量の減少(省エネ、冷夏・暖冬等)や電力の排出原単位の改善(再生可能エネルギーの導入拡大や原発の再稼働等)に伴う電力由来のCO₂排出量の減少により、エネルギー起源のCO₂排出量が減少したことなどから、前年度比2.9%、2013年度比6.0%減少しました。また、2005年度の総排出量(13億9,900万トンCO₂)と比べると5.3%減少しました(図1-1-4)。</p>											
	<p>図1-1-4 日本の温室効果ガス排出量 (億トンCO₂換算)</p>											
出典	<table border="1"> <tr> <td>サイトの開設者</td> <td>環境省</td> </tr> <tr> <td>ページのタイトル</td> <td>環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年版 第2部第1章 低炭素社会の構築 3. 日本の温室効果ガスの排出状況</td> </tr> <tr> <td>トップページのタイトル</td> <td>環境省 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年度版</td> </tr> <tr> <td>URL</td> <td>http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/html/hi17020101.html</td> </tr> <tr> <td>閲覧日</td> <td>2018年 5月 10日 閲覧</td> </tr> </table>	サイトの開設者	環境省	ページのタイトル	環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年版 第2部第1章 低炭素社会の構築 3. 日本の温室効果ガスの排出状況	トップページのタイトル	環境省 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年度版	URL	http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/html/hi17020101.html	閲覧日	2018年 5月 10日 閲覧	<p>調べた内容や引用 書き写さずともコピーや 印刷を貼ってもOK!</p> <p>誰が書いたのかわからない 情報は根拠にはならないよ!</p> <p>インターネット上の情報は、 内容の書き換えが簡単なので、 いつの時点の情報か記録してね</p>
サイトの開設者	環境省											
ページのタイトル	環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年版 第2部第1章 低炭素社会の構築 3. 日本の温室効果ガスの排出状況											
トップページのタイトル	環境省 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 平成29年度版											
URL	http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/html/hi17020101.html											
閲覧日	2018年 5月 10日 閲覧											
メモ	信頼性◎ CO2は減ってる? 2009年と15年は何があったの?	<p>自分の考えや、重要度、比較など自由に書いて使おう</p>										

2. 出典は必ず記録! これ鉄則!!

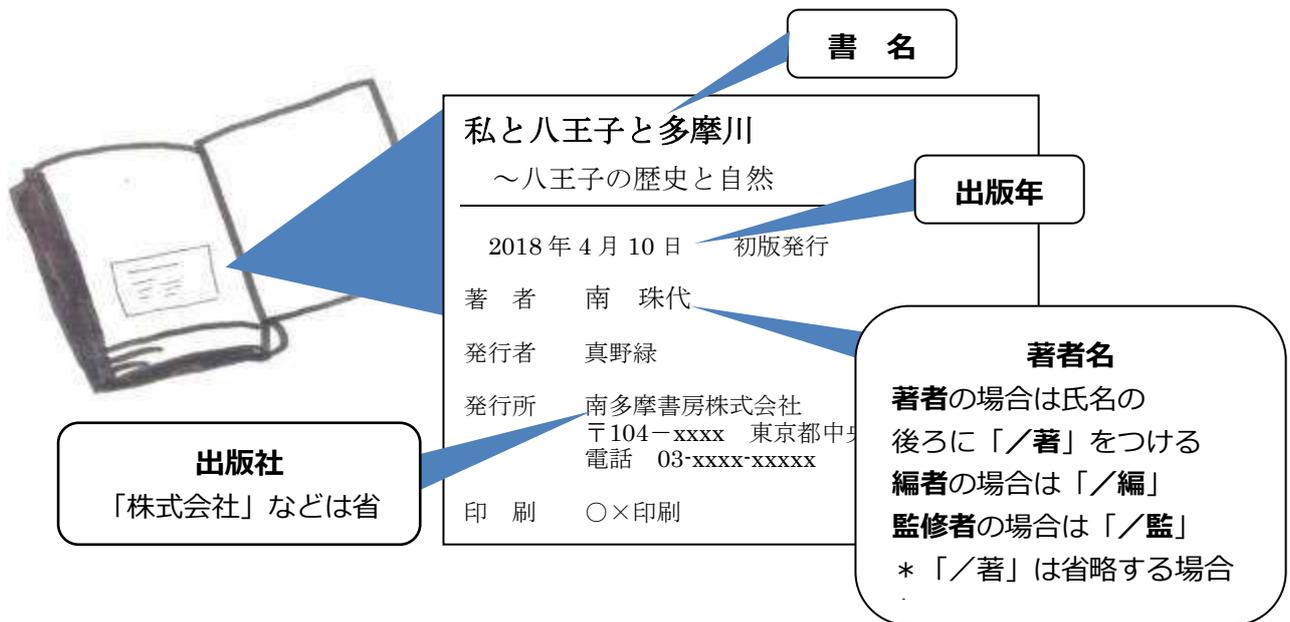
情報源はどこか。これをきちんと記録するのは鉄則です。根拠のないレポートはレポートではありません。また、レポートや論文は、調べたことや他の人の文章を引用する際に、出典を示さなくてはなりません。出典を明らかにしないと、盗作・研究不正になってしまいます。出典はレポートの最後にまとめて、参考文献として載せます。忘れないように記録しておきましょう。

出典ってどこを見るの？

～表示場所と書き方を覚えよう～

1. 本の場合

本の最後の方に奥付（おくづけ）という本の情報がまとめてあるページがあります。ここを見て、著者名・書名・出版社・出版年を書きます。使った資料は参考文献として、レポートの最後にリストにしてつけます。書き方の例も下に載せますので、必ず記録しましょう。

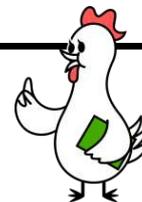


<参考文献の書き方の例>

著者名/著『書名』出版社，出版年

南珠代/著 『私と八王子と多摩川』南多摩書房，2018

知っておくとレベルアップ



<版 と 刷 知っているとう違うよ!>

版：版組を作り直して、改訂を加えたもの →内容が変わっている

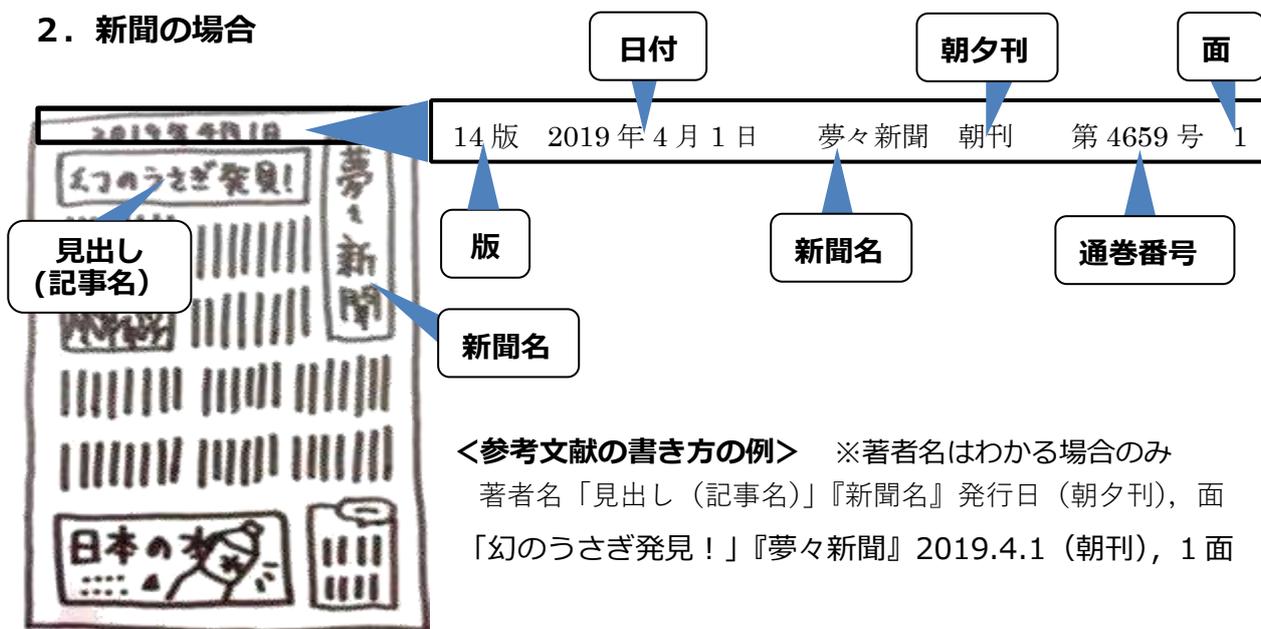
刷：その版をそのまま印刷しただけのもの →内容は変わっていない

このような奥付の場合…

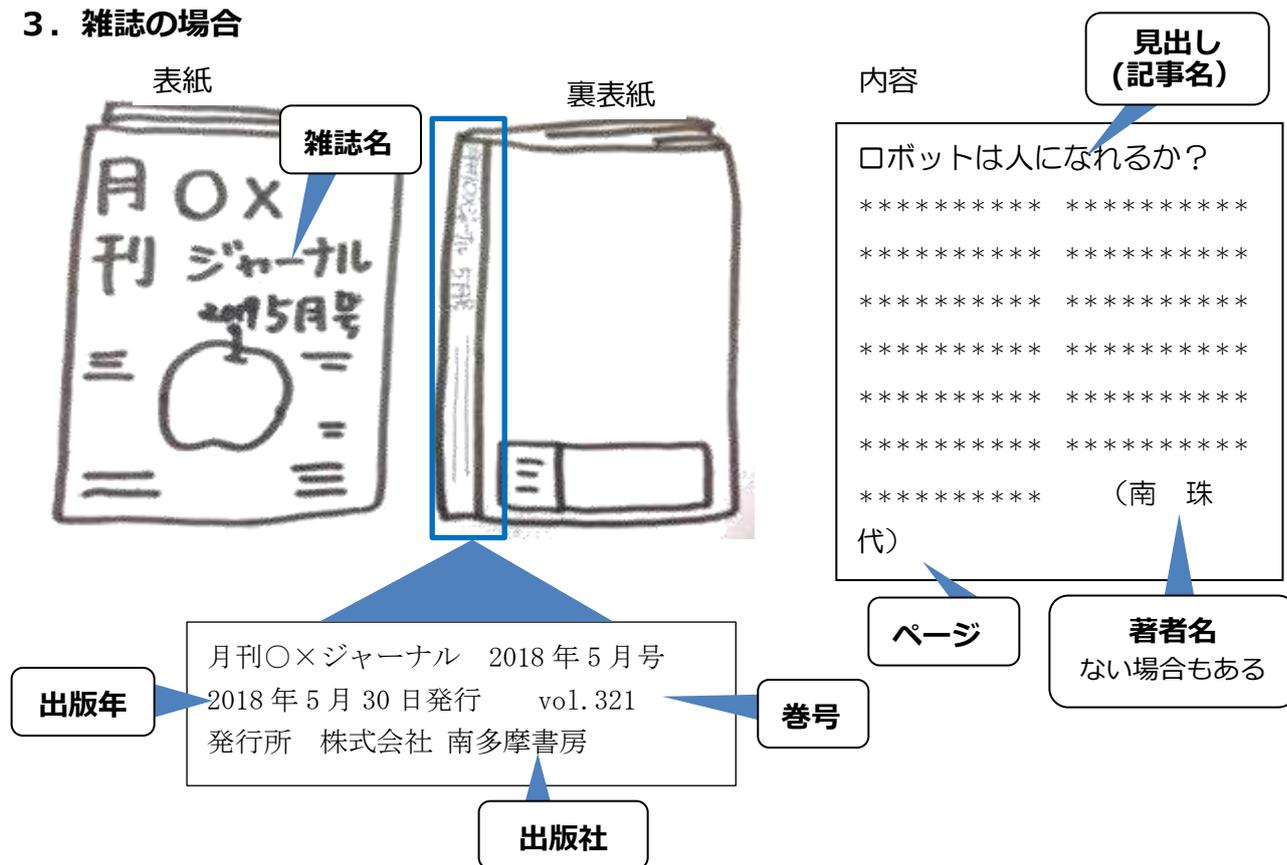
2003年	3月	15日	初版発行
2011年	5月	15日	第3版 第1刷発行
2013年	6月	30日	第3版 第3刷発行

記録しておく出版年は2011年です。

2. 新聞の場合



3. 雑誌の場合



4. インターネットの場合

ページのタイトル
タブでも確認できる

URL
インターネット上の住所。
長くても間違えずにメモ

●東京の学校図書館

トップページのタイトル
開設者と同じ場合(官公庁など)は省略できる

出典ってなあに？

「みなさん、レポートを書く際には必ずシュッテンを書きましょう」そう言われたとき、すぐ「出典」という言葉が浮か

(ページ下部)

*このサイトは実在しません

サイトの開設者(著作者)
基本的に最下部にある。リンクが張られていることも。
誰が作ったのかわからないサイトはレポートに向かないよ！

<参考文献の書き方の例>

サイトの開設者「ページのタイトル」『トップページタイトル』URL, 参照日
東京の学校図書館「出典ってなあに?」『みんなで学ぼう! 学校図書館』,
https://www.schoollibrary/enjoylearning/source-1.html, 参照日: 2018.5.16